

コミュニケーション

発行 大崎市民病院 病院経営管理局 病院経営管理部 経営企画課
内線946 Voip内線881-946 Email:kikaku@h-osaki.jp

目次

- | | |
|---------|----------------------------|
| 1ページ | 鳴子温泉分院情報（つるし雛をご寄贈いただきました。） |
| 2ページ | 本木病院事業管理者より就任のご挨拶 |
| 3, 4ページ | 新病院建設ニュース |
| 5ページ | 院内保育所あいあい卒園式, お知らせ |

鳴子温泉分院 情報 （つるし雛をご寄贈いただきました。）



桃の節句に合わせて「台町商店街」様からご寄贈いただいた「つるし雛」を外来待合ホールに1月下旬から展示しました。

赤や青、黄色など色とりどりの「つるし雛」を飾ったことによってホールに季節感が加わり、また、丁寧に作られたそれぞれの人形には、
「亀：亀は長寿の象徴です」
「ぞうり：足が丈夫になるように」
「花：花のように娘や孫が可愛くなるように」といったように様々な願いが込められており、待ち時間を利用して人形の解説に見入る患者様の姿も見られ、訪れた人から大好評をいただきました。

「台町商店街」様では、毎年、交流サロン「ほほえみ」で「つるし雛展示会」を開催し、2月末には「ひな祭りウォークラリー」というイベントも行われています。

本木病院事業管理者より就任のご挨拶

病院事業管理者 本木 隆



<これまでの経歴>

昭和53年4月 宮城県に採用
平成11年4月 総務部秘書課長補佐
平成15年4月 保健福祉部子ども家庭課副参事兼課長補佐（総括担当）
平成16年4月 産業経済部経済産業再生戦略局長代理
平成18年4月 保健福祉部長寿社会政策課長兼介護保険室長
平成20年4月 保健福祉部参事兼長寿社会政策課長兼介護保険室長
平成21年4月 保健福祉部次長

1月18日から管理者に就任しました本木です。よろしくお願ひします。

あっという間の1か月が経過し、少しずつ大崎に慣れ、病院勤務にも慣れ、管理者？にも少し慣れたかと思っておりますが、皆さんとのコミュニケーションはまだですので、これからお会いしたとき、気軽にお声掛けください。

私の前職は県職員ですが、自己紹介のつもりで、私の拙い経験から医療とのつながりを拾ってみます。近年の経験でも医療との連携が急務でした。例えば、児童虐待防止は地域で支えていく体制が重要ですが、とりわけ、医療も含めた実効性あるネットワークづくりが急がれていますし、産後うつのお母さんたちの早期発見やその対応も同様です。あるいは介護保険分野では認定のカギを握っている主治医意見書の充実であったり、ケアマネや地域包括に対してはいかに医療と連携をとるかを話し合ったりしていました。退院支援や包括ケアを実現するための努力は地域で暮らしていくために欠かせられません。あるいは急増する認知症も深刻です。特に早期発見と確定から対応までの医療対策が重要で、かかりつけ医の認知症対応力向上研修のため郡市医師会を回ったこともありました。保健と医療と福祉の連携という誰もが大切だと分かっているながら、現場で動く仕組みづくりまでは本当に難しいものです。

昨年は、医療担当として、県医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、看護協会と一緒に様々に取り組んできましたが、メキシコ発の新型インフルエンザの対応に追われた一年でもありました。我が国の感染症対策、とりわけ、ワクチン行政の弱腰を見せた一年でした。

さて、若い時、公営企業の指導業務で県内自治体病院を数多く訪問した経験があります。院長先生や事務長さんから指摘された、医療をめぐる厳しさはその時から一向に変わりませんが、これまで、理念先行型の制度改革で迷走を続け、疲弊した日本の医療制度も、少しずつ新たな光が差し込む気配もあります。

私たちは、大崎市民病院で地域医療に携わっている誇りと自信をもち、これまで同様、患者さんの満足や信頼を得るため、希望の路を歩み続けたいと思います。皆さん一人ひとりがチームの一員として！

新病院建設ニュース

市民のための病院建設を進める懇談会を開催しました。

2月1日から11日にかけて市内17会場で「市民のための病院建設を進める懇談会」を開催し、約800人の市民と懇談しました。

病院からは本木管理者を始め、並木局長以下関係職員が連日出席し、本院建設予定地の地質調査（ボーリング調査）結果の報告と本院建設事業の概要を説明しました。

その際、多くのご意見ご提言をいただきました。その主な内容と現時点での考え方をお伝えします。

『高速道路や公共交通機関との連絡をよくしてほしい』

救急医療体制をさらに充実するため、高速道路から短時間で乗り入れできない方法がないか検討をしています。また、JR塚目駅との連絡や循環型バス、タクシー、その他公共交通機関も含めて、新病院への足の確保を検討します。

『学校が近いので、救急車の音や通過車両の増加が心配』

協議会をつくり地域の人と話し合いながら、工事中の交通安全対策や混雑緩和、騒音や振動対策、開院後の交通安全対策などに十分配慮します。

『災害時に強い病院を作ってほしい』

電気や水道などのライフラインの強化を図ります。

災害時には、隣接する学校施設を病院の補完的施設として利用できれば、理想の災害拠点病院になると考えています。

『新病院の想定する利用者数は年間40万人と、現在より少ないのはなぜ？』

新病院は急性期の医療を担い「地域医療支援病院」として紹介患者を中心として診療します。入院や手術の必要な患者を診て、安定した段階では周辺の病院に紹介します。



『市の財政が厳しい中で、建設費の財源、市や病院の負担は大丈夫？』

市民病院本院移転建て替えに係る総事業費は約194億円を想定しています。新市建設計画では160億円としているので、できる限り近づけられるよう、事業費の縮減を目指します。

病院の経営状態は、平成18年度は約12億円の赤字でしたが、翌年には赤字が約6億円に半減し、平成20年度は赤字経営から脱却して経常収支黒字となりました。病院の財政予測では、現在の経営状態を維持すれば、建設事業費を支払っていくことは問題ないとされています。

『分院を診療所化する話しはどうなったの？ 経営が悪化すれば分院はなくなるの？』

平成19年に、経営悪化に対して危機感を持って内部で検討をした結果、診療所化を含めた経営改善の報告が出されました。

昨年3月に策定された市民病院基本計画では、そうした経緯も踏まえて、分院と本院が連携し、無駄を無くして効率化を図るように定められ、その計画に基づいて病院建設が進められています。

経営についても、本院・分院・診療所が一体となって経営改善に取り組んだ成果が現れてきています。

このことから、分院の診療所化は考えていません。

平成23年度からは、電子カルテを導入しネットワーク化することで、本院と分院や診療所との連携がさらに強まり、本院の高度な医療サービスを、瞬時に受けられるような仕組みを構築して、分院のサービス向上を図ります。

未来につなげる病院建設に向けて

「市民と職員のための病院建設を進める院内研修会」を開催します。

職員の情報共有化、協力体制により「良い病院」をつくるため、下記のとおり研修会を開催します。

今回の研修会には、病院スタッフが設計に参加した事で、全国的に注目されている東海大学医学部の田中先生をお迎えし、ご講演をいただきます。

ぜひご参加ください。

- 日 時 平成22年3月26日（金）午後5時30分～午後7時30分
- 場 所 医療情報支援センター（講義室1・2、会議室1）
- 内 容 1 報 告 本院基本設計の内容とスケジュール
2 講 演 演題：「未来につなげる病院建設に向けて（仮題）」
講師：東海大学医学部准教授 田中 豊 先生
3 意見交換

院内保育所 あいあい 卒園式

3月19日、院内保育所にて卒園式が行われました。
4人の女の子が、保育所あいあいから巣立って行きました。



お知らせ

<次回の発行予定>

5月17日・・・ 4月30日締切り。臨時増刊は随時。
広報紙への情報提供等はこちらまで 経営企画課 Email：kikaku@h-osaki.jp
ご協力よろしくお願いいたします。